

## 議事録

# 第XIV期うきたむ学講座 11月実行委員会

日時	令和元年 11月 10日 (日) 13:30~14:30
場所	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室
座長	委員長 吉田 歆
参加者	委員 佐藤鎮雄 佐藤庄一 二宮美夫 古川和夫 渡部眞治 益田則雄 高橋 拓 事務局 渋谷孝雄

1. 開会あいさつ 渋谷事務局長

2. 委員長あいさつ 吉田実行委員長

3. 座長就任 吉田実行委員長

4. 報告

- (1) うきたむ学講座総括実行委員会の結果について  
(事務局から説明し、承認を頂く)

5. 協議

- (1) 第14期うきたむ学講座の持ち方について

□第14期うきたむ学講座実施計画について

総括実行委員会でお出された各委員の意見に基づいて資料の計画案を事務局から提示し、第1回から3回の講座内容は下記のように決定した。

第1回講座：令和2年1月12日(日)13:00-16:00

開講式(実行委員長開講の辞・主催者挨拶)13:00-13:15

講座①「伊佐早謙が残した林泉文庫について」

新宮 学氏 (山形大学) 13:20-14:30

講座②「戦国末期から近世前期の土豪と村落—小国石滝村・五味沢村の両齋藤家の事例を  
通して」

渡部 眞治氏 (徳太郎文庫) 14:45-15:55

第2回講座：令和2年2月2日(日)13:00-16:00

主催者挨拶(実行委員長)13:00-13:10

講座③「鉾山と鉾床の形成過程(仮題)」 中島和夫氏 (山形大学理学部) 13:10-16:00

第3回講座：令和2年3月1日(日)13:00-16:00

主催者挨拶(実行委員長)13:00-13:10

講座④「長井市の仏像・神像について」 長坂 一郎氏(東北芸術工科大学) 13:10-14:30

講座⑤「長井市史編纂事業について」 岩崎 義信氏(長井市教育委員会) 14:45-15:55

閉講式(実行委員長閉講の辞・主催者挨拶)

②第14期うきたむ学講座予算案について

資料の予算案を事務局から説明し、資料の\*内訳の講師謝金合計 60,000 円を 68,000 円に訂

正の上、予算案が承認された。

### ③その他

各回の講師依頼と演題については、下記のように分担することとなった。

第1回の新宮先生への依頼と演題に、渡部先生の演題決定については、渡部眞治委員が担当し、11月17日までに事務局に報告すること。

第2回の中島先生への依頼は秦委員に報告し、秦委員、もしくは事務局で依頼する。

第3回の長坂先生と岩崎先生からは内諾を得ているが、事務局から正式に依頼すること。

### (2) その他

事務局から島津憲一委員から奥様の病気・介護のため委員を辞したいとの連絡があったことを報告し、残念だが、やむを得ないとのことで承認された。

各委員から以下の自由発言あり。

佐藤庄一委員：令和2年の8月第1週の日・月に南陽市を会場として「山形県地域史研究協議会」の第46回研究大会が開催されるので、皆さんからの積極的な参加をお願いしたい。

高橋 拓委員：近年、置賜の各市町に新しい職員が採用されているが、その方々に、当講座で話をしていただくということを積極的に進めたらいかか。いきなり、当該年度に依頼をするというやり方でなく、前年度あたりからお願いしておけば、お話ししていただけるのではないか。若い人に主体的になっていただかないと、会の運営の先細りしていくのではないか。

佐藤鎮雄委員：新しい受講者の開拓も必要。この会を立ち上げた頃には、たとえば、飯豊町の井上さんのように、地元をまとめて牽引していく方が、各地域におられたが、今はこのような状況にはない。

二宮美夫委員：現在高畠町文化財保護会の会長を務めているが、会員の高齢化が進み会報の配布もままならなくなって来つつある。新しい町職員の力を借りながら細々と運営している状況。

高橋 拓委員：飯豊町では文化財に関わる郷土資料のカルテ化を進めている。現況では、いきなり出版ということにもっていく力もないので、この方式に期待している。

渡部眞治委員：若い講師という点では蛸原委員の旦那さんのいっぺいさん、またぎの研究者でありながら、猟師もされている。このような方のお話も魅力的ではないか。

前回の総括実行委員会で、事務局から、前回、通信費の削減を行い、できるだけ運営費の削減を行いたい旨の意見を出し、実行委員の皆様への連絡はできる限り電子メールを使うこと、また、うきたむ風土記の丘考古資料館ホームページに「うきたむ学講座」のタグを設け、ここに、諸資料を収めることで承認を受けました。しかし、郵送が必要な方がなかなか減りません。メールアドレスをお持ちの方には、是非ご協力をお願いいたします。

うきたむ学講座のメールアドレスはつぎのとおりです。

[ukitamugaku@ukitamu.pupu.jp](mailto:ukitamugaku@ukitamu.pupu.jp)

このアドレスに委員の皆様への電子メールアドレスをお知らせいただきますよう重ねてお願いいたします。

※ 佐藤鎮雄委員からうきたむ学講座の通信費にでもということ、小銭貯金1缶の寄付がありました。中には8,665円の浄財が入っていました。切手を購入して通信費に使用させていただきます。

# 第XIV期うきたむ学講座実行委員会次第

令和元年 11 月 10 日

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

1. 開会のあいさつ(事務局長)
2. 実行委員長あいさつ(吉田委員長)
3. 報 告
  - (1)うきたむ学講座総括実行委員会の結果
4. 協 議
  - (1)第XIV期うきたむ学講座の持ち方について
    - ①第XIV期うきたむ学講座実施計画(案)
    - ②第XIV期うきたむ学講座予算案について
    - ③その他
  - (2)その他
5. 閉会のあいさつ(高梨副委員長)

## 実行委員

委員長 吉田 勲・副委員長 岩崎義信 高梨善三郎

委 員 青木慶一・井田秀和・岩崎義信・江口儀雄・蛭原紘子・海藤 元・角田朋行  
桐澤民雄・小林貴宏・今 紘一・佐藤鎮雄・佐藤庄一・佐藤公保・島崎正弘・島津憲一  
角屋由美子・清野春樹・高梨善三郎・高橋 拓・高橋信博・手塚 孝・二宮美夫・秦 昭繁  
古川和夫・益田則雄・宮原博通・吉田 勲・渡部真治

## うきたむ学講座について

### 1. 講座開設の経緯

置賜地方における原始・古代・中世・近世の歴史を広い視野から見直すと共に、置賜各地で歴史・民俗・自然等の解明および保護などに取り組んでいる団体や個人が交流し合うことを目的として平成18年度に開設し、現在に至っています。

運営の主体はうきたむ学講座実行委員会、置賜各地の趣旨に賛同する方々が結成しております。

### 2. 主 催 うきたむ学実行委員会

委員長：吉田 歆 副委員長：岩崎義信、高梨善三郎

委 員：青木慶一・井田秀和・岩崎義信・江口儀雄・蛭原紘子・海藤 元・角田朋行  
桐澤民雄・小林貴宏・今 紘一・佐藤鎮雄・佐藤庄一・佐藤公保・島崎正弘  
島津憲一・角屋由美子・清野春樹・高梨善三郎・高橋 拓・高橋信博  
手塚 孝・二宮美夫・秦 昭繁・古川和夫・益田則雄・宮原博通・吉田 歆  
渡部真治

### 3. 共 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

### 4. 主 管 うきたむ学講座運営委員会

委員長：吉田 歆 副委員長：岩崎義信、高梨善三郎

委 員：小林貴宏・佐藤鎮雄・佐藤庄一・島崎正弘・島津憲一・角屋由美子  
秦 昭繁・古川和夫

### 5. 講座の内容

①置賜地方の考古・歴史を中心に、時には自然・民俗におよぶ広範なものとする。

②中心の時代は原始・古代・中世に置くが、必要により近世にも範囲を広げる。

③各講座の形態は、講義・発表・パネルディスカッションとする。

### 6. 講座の持ち方 1月・2月・3月の各月1回とする。

令和元年度は令和2年1月12日(日)・2月2日(日)・3月1日(日)

### 7. 会 場 山形県立うきたむ風土記考古資料館研修室

### 8. 経 費

受講者1名につき600円の受講料をもって、運営経費とする。

### 9. その他

本要項にない事項については、運営委員会の協議および主催者の判断によって決める。

## うきたむ学講座実行委員会規約

### [趣旨]

第1条 置賜地方の歴史解明および歴史理解の普及を広い視野から幅広く推進するため、置賜地方の歴史等関係者および団体が相集い研修し合うことを目的とする。

### [名称]

第2条 この会の名称を「うきたむ学講座実行委員会」と称する。

### [組織]

第3条 趣旨に賛同し、講座を支える意思を有する実行委員で組織する。

### [活動]

第4条 趣旨を達成するための「うきたむ学講座」を山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館と共催し、かつ必要な活動を行う。

### [実行委員]

第5条 実行委員は、本会の活動を代表者を通じて運営するとともに、会の活動に参加し、一般市民の参加を呼びかける。

### [役員]

第6条 本会に次の役員をおく。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 2名
- (3) 運営委員 若干名
- (4) 事務局員 若干名

### [機関]

第7条 本会の運営のため、次の機関を置く。

- (1) 実行委員会(全体会) 定例会を年1回開き、方針および活動計画を決定する。
- (2) 運営委員会(役員会) 正副実行委員長・運営委員・事務局員をもって構成し、実行委員会です定められた事項に基づき会の運営を行う。
- (3) 事務局 正副実行委員長の指示に基づき実行委員会および役員会に関する事務等の協議を行う。

### [会計]

第8条 本会の会計は、うきたむ学講座受講費その他の収入をもって充てる。受講費は当分の間600円とする。

### [事務局]

第9条 本会の事務局は、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館に置く。

うきたむ学講座実行委員名簿

No.	氏名	役員	所属等
1	青木 慶一		長井古文書研究会事務局
2	井田 秀和		高島町教育委員会
3	岩崎 義信	副委員長	長井市教育委員会
4	江口 儀雄		元山形県文化財保護指導委員
5	蛭原 紘子		小国町役場
6	海藤 元		長井市教育委員会
7	角田 朋行		南陽市教育委員会
8	桐澤 民雄		うきたむ考古の会会員
9	小林 貴宏	運営委員	高島町教育委員会 うきたむ考古の会幹事
10	今 紘一		長井文化財保護協会事務局長
11	佐藤 鎮雄	運営委員	前考古資料館館長
12	佐藤 庄一	運営委員	山形考古学会会長
13	佐藤 公保		米沢市教育委員会
14	島崎 正弘	運営委員	高島町文化財保護会顧問
15	島津 憲一	運営委員	高島町文化財保護会副会長
16	角屋 由美子	運営委員	米沢市上杉博物館 米沢古文書研究会
17	清野 春樹		置賜民俗学会会員
18	高梨 善三郎	副委員長	うきたむ考古の会副会長
19	高橋 拓		飯豊町教育委員会 東洋陶磁学会
20	高橋 信博		山形県置賜総合支庁
21	手塚 孝		まんざり会会長
22	二宮 美夫		高島町文化財保護会会長
23	秦 昭繁	運営委員	考古学研究家
24	古川 和夫	運営委員	屋代村塾代表
25	益田 則雄		小国町文化財調査員
26	宮原 博通		高島町地域経済活性化戦略会議アドバイザー
27	吉田 歆	委員長	米沢史学会事務局長 米沢女子短期大学
28	渡部 眞治		徳太郎文庫長
	渋谷 孝雄	事務局	考古資料館館長

(委員名は五十音順)

## 第XIVうきたむ学講座実施計画(案)

2019.11.10

### 1. 趣旨

置賜地方の原始・古代・中世・近世の歴史や民俗・自然について理解を深めると共に、置賜地域の歴史・民俗・自然・文化財保護関係諸団体の活動について情報交換し、置賜地方の文化・自然遺産保護思想啓蒙に資する。

2. 主催 うきたむ学講座実行委員会

3. 共催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

4. 主管 うきたむ学講座運営委員会

5. 講座の実施日・内容(講師依頼・内諾済み)

テーマ:『歴史・民俗・生物・地形・地質から置賜を読み解く』—多様な視点から置賜地域をあぶり出す

(特別講座)———終了

◇令和元年6月1日(土) 13:30-16:30 (米沢女子短期大学)

米沢史学会 2019 と共催

「溝で囲まれた遺跡に迫る—大南遺跡—」

コーディネーター 吉田 歓(山形県立米沢女子短期大学)

「大南遺跡発掘調査の成果」 佐藤公保氏

「大南遺跡の年代測定の結果」 門叶冬樹氏

「大南遺跡出土の陶磁器」 山口博之氏

「大南遺跡の神像」 山下 立氏

第1回講座:令和2年1月12日(日)13:00-16:00

開講式(実行委員長開講の辞・主催者挨拶)13:00-13:15

講座①「林泉文庫について」 新宮 学氏 (山形大学) 13:20-14:30

講座②「演題未定(修論から)」 渡部眞治氏 (徳太郎文庫) 14:45-15:55

第2回講座:令和2年2月2日(日)13:00-16:00

主催者挨拶(実行委員長)13:00-13:10

講座③「鉱山と鉱床の形成過程」 中島和夫氏 (山形大学理学部) 13:10-16:00

第3回講座:令和2年3月1日(日)13:00-16:00

主催者挨拶(実行委員長)13:00-13:10

講座④「長井市の仏像・神像について」 長坂一郎氏(東北芸術工科大学) 13:10-14:30

講座⑤「長井市史編纂事業について」 岩崎義信氏(長井市教育委員会) 14:45-15:55

閉講式(実行委員長閉講の辞・主催者挨拶)

6. 会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

### 7. 経費

◇ 受講者1名につき600円の受講料と考古資料館負担金をもって運営経費とする。

◇ 講師・正副委員長以外は全て受講者扱いとする。

◇ 運営経費の内容は、講師等謝金および交通費・資料代・事務費とする。

## 第XIV期うきたむ学講座予算案(案)

### 1 収入

科 目	予算額	内 訳
団体負担金	68,500 円	うきたむ風土記の丘考古資料館
受講料等収入	36,000 円	@¥600×60名=¥36,000
合 計	104,500 円	

### 2 支出

科 目	予算額	内 訳
謝金	68,000 円	講師4名分 (@¥12,000×4名) 講師1名分 (@¥20,000×1名)
旅費	14,600 円	講師旅費5名分
賃借料	9,000 円	施設使用料 (@¥150×60名)
通信運搬費	10,000 円	委員会事務連絡、講師依頼・礼状送付 広報チラシ発送費(山形県内のみ)
消耗品費	2,500 円	封筒他
雑費	400 円	お茶他
合 計	104,500 円	

#### \*内訳

①講師謝金 @20,000円×1 + @12,000円×4 .....60,000円

②講師交通費 @3,200円×3+@3,000円×+@2,000円×1.....14,600円

交通費 支給基準(実際は発地・着地間の距離×2×37円で計算)

天童.....講師 4,500円

山形・上山.....講師 3,200円

長井・白鷹・小国.....講師 3,000円

米沢・川西.....講師 2,000円

南陽・高畠.....講師 1,000円

(運営委員・実行委員については平成23年5月14日総括実行委員会の決議により支給しない事となっております)

③資料代 受講しないで資料のみの場合:資料代を受講料と同額領収する。  
前年度分も同様とする。